

みやざき九条の会ニュース No.10

2008年1月10日発行

〒880-0803 宮崎市旭 1-3-20 くすの樹ビル
宮崎中央法律事務所内
TEL0985(24)8820 FAX0985(22)2937
E-mail miyazaki9jou@yahoo.co.jp
http://welove9.org/

眼を見開いて

みやざき九条の会 代表世話人 南 邦和

師走にある生命保険会社が発表した「創作四文字」の優秀作品の中に、「突然返位」(突然変異)が選ばれて話題となった。若者を対象にした“ジューダイニュース”でも「安倍首相退陣」がダントツ一位であった。2007年は例年にも増して政治空白、スキャンダルまみれの、ハプニングの多い一年であった。

その後の福田内閣のもとでも、公的年金への公約違反や、憲法無視の「新テロ対策特別措置法案」成立を目指す、ゴリ押し手法での政府“与党の狂態ぶり”が見られる。(年末の世論調査では、支持率35%の急落ぶりである)

日本の政治の現実、まさに船長不在の“漂流船”の様相を呈している。このような視界ゼロの政治状況の中で、「国民投票法」の次なる布石としての憲法改悪プログラムを予測することなど困難だが、この春にも予想されている衆議院選挙の結果次第では「九条改正」への策謀が加速することも、十分視野

に入れておく必要があるだろう。

県下各地に広がりつつある<九条の会>とともに、わが<みやざき九条の会>も四年目の活動期に入っているが、マンネリの指摘も聞こえてくる。その一方で、東国原英夫知事の「徴兵制はあってもいい」発言に見られる政治家の“本音”や映画「日本の青空」上映にあたっての県教委の対応などの、あからさまな反動の動きも見過ごしにはできない。

昨年秋、私は広島から四国への小さな旅をしてきたが、被爆地ヒロシマでは勿論のこと、気まぐれに立ち寄った城下町伊予大州でも「九条を守ろう！」のポスターを見かけ見知らぬ仲間たちの力強い連帯の意思を感じた。

<“九条”の会>はすでに七千台に届こうとしている。この年頭にあたって日本の現実、世界の潮流に、眼を見開いて、さらなる前進を誓いあいいたいとおもう。

行事案内

第63回憲法と平和を考えるつどい 「世界から見た平和憲法」

お話：伊藤千尋さん

伊藤さんは、朝日新聞記者として、米国、中南米、ヨーロッパなど世界各地で取材を重ね、平和や民主主義を求めて闘う人たちの姿を全国に伝え続けています。『燃える中南米』(岩波新書)など著書多い。映画評論にも造詣深く、近著に「君の星は輝いているか」(沖・フロン社)。(乞うご期待！)

日時：2008年2月11日(月)10:00~12:00

会場：宮崎中央公民館3階大会議室

主催：日本科学者会議宮崎支部・宮崎民主法律家協会

協賛：憲法と平和をまもる宮崎県連絡会

資料代：500円

「歌とお話・“9条”コンサート」

ホームレスの現場から9条を考える

お話：東八幡教会牧師 奥田 知志さん

音楽：南小倉教会牧師 谷本 仰さん

日時：2008年2月11日(月)14:30~16:00

会場：高鍋町美術館(高鍋町舞鶴公園隣)

入場料：500円(当日券もあります)

主催：歌とお話・“9条”コンサート 実行委員会

お問い合わせ先：日本バプティスト高鍋キリスト教会 横川澄夫 0983-22-0630

ピースウォーク(上記集会終了後)

日時：2008年2月11日(月)12:20-13:30

場所：中央公民館前噴水広場 宮崎駅

高千穂通 山形屋 若草通 宮崎駅

主催：みやざき九条の会

(ゼッケンなど用意して参加しましょう)



「みやざき九条の会」の昨年の活動をふりかえって

みやざき九条の会事務局次長 牧村 進

【郡山総一郎さんの講演会】2007年2月27日(火) 県立芸術劇場。今、戦争時下のアフガニスタン、イラクや今なお戦争の傷跡残るカンボジアで苦しんでいる現地の人々、とりわけ子どもたちの生々しい写真と相まって、衝撃的で感動を呼びました。

【イブラヒムさんの講演会、イラクの子どもたちは今】8月21日市民プラザ、イラク戦争で米軍が使用した劣化ウラン弾で被爆した多くの女性や子どもの報告。

映画「日本の青空」宮崎上映会について
当会では、映画「日本の青空」の招待試写会を6月8日に芸術劇場で行い、ほぼ満席の約280人が鑑賞されました。当会では、広く県民にこの映画を鑑賞してほしいとの願いから、実行委員会を設けて上映会を10月6-7日、佐土原総合文化センターと県立芸術劇場で実施すべく、当会は全力をそそぎました。

【結果】

佐土原会場では約400名、宮崎会場では600名入場者、6月の試写会鑑賞者と9月都城九条の会主催上映会での入場者約700名も加えると、県内で約2000名の方が日本の青空を鑑賞したことは大きな成果であった。今回の上映でチケット販売枚数は1,100枚で、カンパも30万6千円ほど集まり、赤字にはならなかったことは幸いであった。ご協力いただいた方々に心から感謝申し上げます。

「日本の青空」鑑賞アンケートから

- ・ 命がけで守った民主主義、憲法。36年間知りませんでした。うまく言葉になりませんが、絶対、憲法変えちゃいけないと思いました。(30代女性)
- ・ 学校でならわれないようなことがたくさんわかってよかった。どうやって憲法がつくれたのかがよくわかって勉強になった。(男、中学生)
- ・ 日本人として人間として、初めて誇りに思えた。憲法は決して変えてはならない。鈴木安蔵が命をかけて作った現憲法は私たち自身である。
- ・ こんな大切な映画はもっと多くの人に見てもらいたい。市井の主婦ですが、戦争のない時代を望む。(50代女性)
- ・ 戦後の日本が平和を心から望んだ末に作られた憲法を守り続けたいと思った。(30代女性)
- ・ 憲法はマッカーサーがつくったと思ったけれど日本人の考えのこもった法律であると知りうれしく思った(男、中学生)
- ・ 日本人としての誇りをもたせてくれる映画、安蔵案を支持したアメリカ人がいたことも感動した(男、50代)
- ・ まじめで、そしてやわらかい映画でした。あらためて「九条の会」のアピールを読み返し、自分の考え、気持ちと同じであると感じました(70代女性)
- ・ この憲法のためにどれだけ多くの人や時間が費やされたのか。多くの人に知ってもらいたい。(50代女性)
- ・ 男女同権と戦争放棄が車の両輪だという安蔵の言葉が心に残った。安蔵の妻の忍耐と夫や子どもへの愛情に感動した。(50代男性)
- ・ 軍国主義のもとでも信念を曲げず日本の民主的あり方を探求していた人たちの実像を知って感動した。科学的観点から導かれた信念はすばらしい。(50代男性)

佐土原での上映をきっかけに佐土原・児湯地域で九条の会が生まれる芽がでてきた。

この間、県内プレイガイドでの宣伝に加えて、マスコミ関係、宮崎県及び宮崎市の教育委員会への映画「日本の青空」名義後援の依頼要請、それに対する教育委員会の反応とマスコミの報道などを通じて、市民が日本国憲法の生成過程や憲法の大切さを見直すのに役だったように思われる。

11月17日の宮崎大学祭での上映会では、期待したほど学生の入場者が少なく残念な結果であった。今後、青年・学生が日本の未来に関わる平和を含めた諸問題に関心を寄せ、運動が進展できるよう、私たちも考えていかなければならないと思う。

【今後にむけて】この間の全国各地での九条の会の多様な活動、とりわけ映画「日本の青空」の上映運動によって、改憲派の「占領軍による押しつけ憲法論」は今やかなり通用しなくなったようである。このような状況をつくり出す上で私たちの運動は大いに寄与しているのではないかと思われる。今後、日本と世界が直面している焦眉の課題、すなわち地球環境、とくに地球温暖化問題、平和問題、格差・貧困問題、食糧・エネルギー問題など関係づけて九条を守り活かす運動を地域からとりくむ必要がある。

年会費 及びカンパのお願い

当会の年会費千円は、主に通信、消耗品費に使われていますが、現在の財政状況は、当会が今後息の長い多面的活動を展開するには、十分ではありません。そこで、当世話人会では、年会費に加えて、カンパ(任意、1口千円)をお願いすることになりました。

同封した<振込用紙>には、2008年の会費千円とこれまで未納の方には未納分を記載してございます。たいへんご足労をかけますが、会費、そして、できればカンパをお振り込み下さるようお願い申し上げます。

なお、当会のニュースは会員以外の方にもお送りしておりますが、その場合、できればカンパをいただければ幸いです。

郵便局振込先

口座記号番号：01760 - 4 - 131244

加入者名：みやざき九条の会

年会費：1000円

カンパ額：一口1,000円

九条の会 全国交流集会

第2回全国交流集会に参加して みやざき九条の会 澤田初枝

1月24日に日本教育会館で開催された全国交流集会に参加しました。

47すべての都道府県から、17才から最高齢95才まで1020人の参加者で会場には立っている人もいほど。小森陽一事務局長の「九条の会」の広がりや活動が、参議院選挙で与党を追いつめた。戦争への道に進むことに国民は反対の意を表した結果が、自民、公明の大敗になったと挨拶。同日の集計で地域・分野別の会は、6800に。資料では宮崎は34の会に。午前中は、澤地久枝さんをはじめ5人の呼びかけ人からあいさつがあり、鶴見俊輔さんは、「九条の会」の活動をずっと続けていくうちに、世界から戦争がなくなるかもしれない。日本は唯一原爆を受けた国だからそれくらいエネルギーが必要-----と。沖縄、

宮城、青年、東京、大阪から報告があり、沖縄のはえはる九条の会は、若い青年たちの呼びかけで結成され、各家庭から500円の募金を集め、「憲法九条の碑」を6市町村で建立していることなど、午後からの分散会でも各地での多彩な活動や、宮崎でも取り組んだ「日本の青空」上映の報告も多数あり、二次上映を計画している地域も。

来年の同じ時期にもっと大きな会場で全国交流集会を開催すること、「九条の会」からの訴えが発表され終了。会場で、宮崎市の小戸、西池九条の会の方と一緒になり心強い思いでした。会場要員で宮崎出身の方に会い思わずにっこり。たくさんの熱い思い受け、参加できたことに感謝し今後にかかして生きたいと思ひます。

「九条の会」からの訴え

「九条の会」アピールへの賛同の輪を創意をこらして広げ、9条改悪反対、9条生かそうの圧倒的世論をつくろう。

職場・地域・学園の草の根で、日本国憲法9条のすぐれた内容と改憲案の危険な内容についての理解を深めるための大小無数の集会を開こう。

当面、「すべての小学校区に九条の会」を合言葉に、文字どおり思想・信条・社会的立場の違いをこえた「会」をつくろう。地域・分野の「会」のネットワークをつくり、交流・協力しあって運動を前進させよう。

県内各九条の会からのレポート

宮崎県内には約30の九条の会がありますが、その活動状況はお互いによく知られていないようです。そこで、みやざき九条の会では、県内各九条の会の何らかの形で“つなぎ役”をする役割が求められています。今回、手始めに、大淀九条の会からの簡単な活動報告をしていただきました。

<大淀九条の会の活動報告>

結成日時 2006年11月12日

会員数 120名ほど(高齢者が多い)

財政:会費なし、K9MPのブックレット販売収益、カンパなどでまかなっている。

ニュースの発行:2ヶ月に1回位のペース
例会:2ヶ月に1回位のペース

07.02.04(日)例会 ブックレット「あなたと考える国民投票法案」杉井静子著の学習 11名

07.03.11(日)例会 講演「良心について」河野富士夫宮崎大学名誉教授 好評 20名

07.05.13(日)例会 宮崎海軍航空隊(赤江飛行場)戦跡探訪(講師 佐藤正信氏) 好評 18名

07.06.24(日)例会 私の戦争体験をかたる(梅田一貞、矢野勝敏、十川キミ江の各氏) 好評 18名

07/11/04(日)結成1周年記念集会 30名参加

07/12/08(土)忘年会 11:00~ 最初の1時間は3人の会員から10分間、話題提供し討論、その後、会食しながら、歓談、歌で盛り上がった。

映画「日本の青空」宮崎上映会への協力とくに留意していること:幹事会(4名)、世話人会(9名)では例会の準備と学習、モットウは楽しく。例会では、全参加者が一回は発言するよう、参加してよかったと思って帰れるよう運営に配慮。

連絡先:連絡先、広井 51-2723

< 随想 >

日本のコメは本当に高いか？

みやざき九条の会代表世話人 藤原 宏志

最近、中国で国際シンポ（主題：稲作の起源）が開かれ十年ぶりに南京へ行く機会があった。この十年間、中国は大きく変貌していた。あの自転車の洪水が車の渋滞に変わっていた。上海の街には都市高速が張り巡らされ、地下鉄や新国際空港が完成している。

研究者の自宅に招かれ、また驚いた。マンションは約100平方m、内装は日本のそれと変わらない。9年前の購入時20万円がいま100万円に値上がりしているという。まさに日本のバブル期再現という実感である。

【中国へのコメ輸出(2007)】

中国は稲作起源地の一つである。いうまでもなく日本の稲作は中国から伝えられた。稲作と同時にもちろんイネも持ち込まれた。したがってジャポニカと呼ばれる日本で栽培されるイネは中国にもある。中国で粳稻と呼ばれる系統がそれである。1994年、日本が全国的な凶作でコメ不足になった時、タイからインディカと呼ばれる長粒種のコメが、またアメリカから中粒種のカリフォルニア米が緊急輸入されたことは記憶に新しい。この時、同時に中国から100万tを超えるコメが輸入されていた事実はあまり知られていない。

【市場経済から生活経済へ】

市場経済が金科玉条のように喧伝され生活感覚まで狂わされているように思える昨今である。現在の中国には1kg：900円の日本産米を買える富裕層がいるという。

表1 中国と日本の平均的なコメ価格と賃金のちがい

	コメ価格	賃金(1元15円で換算)
中国	45円(3元)	375円(25元)
日本	300円	5600円(最低賃金)

しかし、上の表1でわかるとおり、南京の平均的な賃金はまだ低い。内陸部の農村ではもっと低いと思われる。1日働いて買えるコメは8.3kgである。日本では最低賃金でも18.6kgのコメが買える。中国から来た留学生が「日本のコメとタマゴは安い」といっていたことを思い出す。ほぼ同質のコメが市場価格にすると日本では中国の6、7倍であり、日本のコメは高いといわれる。しかし、働いて賃金を得て生活する視点で見れば、日本では中国の2倍のコメを得ることができる。つまり日本のコメは中国の半分の価値しかないのである。

市場経済至上主義の日本では消費者まで市場感覚に染まっており、生活感覚が麻痺させられている。

日本のコメはやはり安すぎる。日本人の1日あたりコメの消費量は200gであり金額にすると60円になる。缶ジュースの半分の値段で主食が賄えるというのは異常である。それを異常と感ぜないのは生活感覚が麻痺している結果である。日本のコメ作り農家が疲弊するのは当然であろう。日本でコメが1kg：900円なら1日のコメ代が180円になる。主食であるコメの値打ちを考えれば、この値段は高いといえるだろうか？ この値段なら米作農家はなんとか経営が成り立つのである。

< 随想 >

鈴木安蔵と私 (みやざき九条の会事務局次長・木下 統)

鈴木安蔵と憲法研究会が日本国憲法の骨格を作ったという事実を、映画「日本の青空」で初めて知ったという人は多いのではないのでしょうか。この映画のおかげで、安蔵さんらの存在がぐんと私たちの身近なものとなりました。

さて、お盆休みで帰省して驚いたことがありました。父が大学で鈴木安蔵ゼミに属していたというではありませんか。私の父は長崎の高校を卒業して、憲法研究会の活動の後に静岡大学で教鞭をとっていた安蔵さんのもとで憲法を学ぶために、わざわざ静岡大学へ進学しました。父が安蔵さんの弟子の一人だった。私にとって安蔵さんがさらに身近なものとなりました。

ところで、父は安蔵さんがいたから静岡大学へ行き、そこで母と出会い、後に私が生まれた。もしも安蔵さんがいなければ今の私もなかった。そう考えると、安蔵さんが私にとって身近どころか、その存在は私が存在する理由の一つだったのです。私もいつの間にか安蔵さんが心を込めた憲法を守る運動に参加していた。何か運命的なものを感じずにはいられません。

そんな私、今は「日本の青空」の上映活動を通じて、安蔵さんらの活躍をできるだけ多くの人に伝えたいと思っています。それが、安蔵さんへのせめてものご恩返しになるのではないかなと思えるのです。